

高次脳機能障害者の
就労に役立つ

アシステイブ
テクノロジー

活用ガイドブック

ガイドブックの作成にあたって

漢字の読めない失語症のある方が漢字を入力するためにはどうしたらよいでしょうか？漢字を入力するために言語を再学習することはとても困難が伴います。漢字にルビを振ればよいと思うかもしれませんが、もし仕事であれば入力するデータ量が増えれば増えるほど、周囲の負担は増大します。スケジュール帳に予定を書いたことを忘れてしまう記憶障害者が自らの予定に気づくためにはどうしたら良いでしょうか？スケジュール帳に予定を書くことができても、参照することができなければ、予定を忘れてしまい、スケジュールを管理することはできません。周囲の人たちが、毎回声をかけてくれればスケジュール帳を参照することができるかもしれませんが、常に対象者を観察するわけにもいきません。

このような場合に役立つのがアシティブテクノロジー(Assistive Technology：以下「AT」という。)です。ATの様々な機能は、とても便利で役立つ機能です。しかし、聞き慣れない言葉であったり、ATを使用することへの抵抗感や使いこなすことが難しいという印象を持たれる方も多いのではないのでしょうか。

このガイドブックは、高次脳機能障害による認知機能(記憶、注意、遂行機能、失語等)の低下をATによって補完する方法をまとめたものです。本稿では、比較的身近にあるWindows10を搭載したパソコン、タブレットPC(iPad)の標準機能に着目し、これらの機能を活用することで、認知機能をどのように補い、職業生活に役立てることができるのか体系的にまとめました。

このガイドブックによって、一人でも多くの高次脳機能障害者の職場定着や職域拡大につながることを祈念します。

【用語の解説】

Assistive Technology：支援技術。支援に役立つテクノロジー全般をさす。携帯電話やパソコンも含まれる。同義の言葉として、認知補助テクノロジー(Assistive Technology for Cognition: ATC)^[1]、情報通信技術(Information and Communication Technology: ICT)等がある。